

ハローキティ 空港の装飾が学びに



創美社 代表取締役

新名 一光氏

- 【質問】
- ①今の自分に最も影響を与えた人は？
 - ②ストレスの解消法は？
 - ③好きな書籍は？

- ①原辰徳氏
- ②愛用のグラスでターキーロック
- ③野村克也著「野村ノート」

大阪で昨年開かれた国際的な博覧会に合わせ、大分空港の愛称が「大分ハローキティ空港」になった。空港の内外をサンリオキャラクターで装飾する施工を担った。

「安全が最重要視される環境下の作業。新たな材料の研究などで多くの経験を得た。今後の成長につなげたい」と飛躍を期す。屋内外の看板の企画・デザインや設計施工、イベントや商業施設の内装・外装工事などを手がける。「伝統技術・クラフトマンシップ・モノづくりの精神」と最新技術を融合した総合力で実績を重ねている。メタバース、ドローン、湾曲可能なLEDビジョンなど、広告美術にも新たな手法が次々と導入される中、全国の話題のスポットへ積極的に足を運び、大分での仕事につなげている。大分ハローキティ空港では、館内の階段やトイレ、待合室の椅子、滑走路の搭乗橋などにキャラクターを配した。「広告物が発着場に落下するような事故は絶対に起こしてはならない。材料の選定や工法の研究に注力した」

昨年は日本ディスプレイ業団体連合会主催の「NDFディスプレイセミナー in 大分」（6月、大分市）開催に尽力した。業界の認知度向上を目的に、日本有数のイベントや装飾に携わる各社スタッフが、業界に入ったきっかけや仕事の魅力を紹介。参加した大学生や専門学校生に好評だった。「技術はいずれ地方にも伝わる。まずは業界に入る人を増やしたい」と先を見据える。創業60年を迎えた昨年から、ブランディングに力を入れている。手がけた広告物やデザインをSNS（交流サイト）に投稿し、自社の技術やデザイン力を発信。「社業はB to B（企業間取引）のビジネスだが、一般の人にも創美社の仕事を知ってもらえれば」。協力企業との懇親会も再開し、顔の見える信頼関係を円滑な業務に結び付ける。「イメージを形にするのがわれわれの仕事。お客さまの期待にプラスアルファの提案で応えていく」。確かな技術と創造力でふるさとを彩る。



6月に開催したディスプレイセミナー in 大分

